

— 二月 如月 —

文・学習院大学教授 荒川正明さん



ほこうさいいじずいかほうおうもんようかびん
葆光彩磁瑞花鳳凰文様花瓶

板谷波山作 大正12年(1923)頃
高さ26.5cm 胴径24.3cm
個人蔵

この作品は、これまで全く知られず、展覧会にも出たこともなく、突然世の中に現れました。こんなものがまだまだ隠れている国、それが日本です。

個人の收藏家が大切にされてきて、ある古美術商さんのご尽力で、みなさんにもご覧いただくこととなりました。

じつはこの作品を直に見たとき、腰が抜けそうに……。葆光彩磁の大名品「葆光彩磁瑞花鳳凰文様花瓶」(出光美術館蔵)と瓜二つ。大正12(1923)年、摂政宮(後の昭和天皇)の御成婚を祝し、久邇宮家の依頼によって制作されたものでしょう。

この花瓶がつくられたのは百年前の関東大震災があった年。それから、太平洋戦争を無事潜り抜けてきましたが、花瓶の持ち主は、さぞかし大変な思いで守り抜いてきたことでしょう。4月からの波山展では、しもだて美術館に展示させていただくことになりました。

さて、この花瓶には雄雌番の鳳凰が表・裏に配されています。上の写真は、羽を大きく広げ飛揚する雄で、まるで手塚治虫の描いた火の鳥のようですね。

この鳳凰は、奈良県の東大寺にある天平時代の鳳凰をモデルとしたものです。鳳凰が素敵なマントを羽織り、大空を舞うかのように見えませんか。

【問】しもだて美術館 ☎23-1601

「板谷先生は大変まめな人で、蛤貝に竹の柄を細い針金でとめて作ったしゃもじを何本もくださいました。(中略)しもつきを盛った鉢に添えて俵んでおります」(同前)。
それが、前ページ下の写真です。
さすが波山先生、やるのが違いますね。針金がないので改良型でしょうか。柄の部分に、茶杓を作っても名人級という波山の技が偲ばれます。
ところで、阿部さんに「すみつかれ」を丁寧に伝授された波山は、東京田端の自宅でも味わっていたのでしょうか。
お孫さんの村田あき子さんとお二人のお手伝いさんに伺ったところ、食卓に上ったことはなく(えっ!?)、何もおっしゃられず、出されたものを何でも召し



文下館・時の会代表 一木努さん

波山を囲んで、左から村田あき子さん、渡辺朝子さん、長塚アイ子さん

上がっていらした、とのことでした。

「波山の夕べ」中止のお知らせ

毎年、板谷波山の誕生日3月3日に開催していましたが「波山の夕べ」は、現下の状況から、今年も中止させていただきます。再開できる日を、もうしばらく、楽しみにお待ちください。

下館・時の会

板谷波山記念館・所蔵品展

板谷波山記念館では、板谷波山とは何者か?に焦点を当てた所蔵品展を開催中です。

波山作品から見る時代背景による影響や、確立した技法についてなど「人間・板谷波山」について展示しています。

会期：3月31日(木)まで

休館日：月曜・3月22日(火)

※ 新型コロナウイルス感染防止のため、2月13日(日)まで休館となります。再開後のお越しをお待ちしています。



【問】板谷波山記念館 ☎25-3830

波山 ニュース

今年の初午は2月10日(木)。
以前はこの季節になると荒物屋さんの店先に「鬼おろし」が登場したのですが、下の写真のような光景どころか、お店さえなくなっていました。
でもたぶん、今年も市内各所のお稲荷さんには、赤飯とともに藁苞に包まれた「すみつかれ」が、供えられることでしょう。



調味料は一切使わないのに、鮭の塩味と粕の甘みがなじんで、じんわりとおいしくなっています。(中略)
私は先生直伝のこの作り方こそ正統派、と自負しております」(阿部なを・河合真理の健康おかず」中央公論社)。
別の本には、波山の言葉が綴られています。
「郷土料理の神髄は細やかな思いやり

なくしては、粗末な材料のめいっばいの味を出させることはできない。また、祖先の大切なかたちや味は伝えるものによって変わってゆくものだから、この機会に自分の「しもつき」を貴方に覚えてもらいたい」(『小鉢の心意気』筑摩書房)。
そして、阿部さんの郷土料理の店が開店した時、波山からお祝いが届きます。

「しもつきかり」、「しみつかれ」あるいは「すみつかれ」など、呼び方はいろいろありますが、ここでは「すみつかれ」でいきましょう。
人気が分かれる当地方の郷土料理「すみつかれ」が、全国に知られるようになったのには、波山も一役買っていたのです。

さて、人形作家で料理研究家の阿部なをさんをご存じでしょうか。テレビの料理番組などで長年活躍し「すみつかれ」を広く紹介してくれた人です。
阿部さんが書かれています。
「48歳のとき、まったくの素人であった私が、食堂を始めることになりました。その時一番応援してくださった陶芸家の板谷波山先生に教えていただいたのが、このしもつき。私の郷土料理の原点でもあります。(中略)



シリーズ 板谷波山

生誕150年

1872 ~ 1963

波山検索ファイル Vol.9

「すみつかれ」

一木努の